

第17回日中韓三カ国環境大臣会合(TEMM17)

TEMMとは

三カ国の環境大臣が、地域及び地球規模の環境問題に関して率直な意見交換を行い三カ国の協力関係を強化することを目的として、1999年より毎年持ち回りで開催。

TEMM17

三カ国の今後5年間(2015-2019)の環境協力に係る三カ国共同計画及び本会合の成果についての共同コミュニケを採択。

さらに中国・韓国と二国間会談を実施。中国環境保護部長との会談は3年ぶり(過去2年は、副部長との会談)。



日 程	平成27年4月29日(水)、30日(木)
開催場所	中国・上海
主な出席者	日本 望月義夫環境大臣
	韓国 尹成奎(ユン・ソンギョ)環境部長官
	中国 陳吉寧(チン・キツネイ)環境保護部長

TEMM17結果概要

共同行動計画(2015～2019)の採択

2010～2014年まで取り組まれていた旧行動計画に続くものとして、2015～2019年に三カ国で取り組んでいく下記9分野の行動計画について採択。

- ①大気環境改善 ②生物多様性 ③化学物質管理と環境に係る緊急時対応
- ④資源循環利用/3R/電気電子機器の越境移動 ⑤気候変動対策 ⑥水及び海洋環境保全
- ⑦環境教育、人々の意識向上及び企業の社会的責任 ⑧地方環境管理 ⑨グリーン経済への移行

共同行動計画(2015～2019)の主な内容

優先分野①(大気環境改善)について

- 大気汚染に関する三カ国政策対話を通じた協力の実施。
- 政策対話の下に、①対策に関する科学的な研究、②大気モニタリング技術及び予測手法に関する2つのワーキンググループの設置
- 政策対話を通じて、地域の大気環境改善のための優れた取組を共有

優先分野⑤(気候変動対策)について

- 気候変動に関して、温室効果ガス削減等の対応策に関し情報・経験を共有

優先分野⑥(水及び海洋環境保全)について

- 海洋ごみの問題に関して、合同ワークショップを開催し、各国沿岸地域の状況把握と海洋ごみの内容を把握するための活動を促進

日中・日韓二国間会談結果概要

日中二国間会談

望月環境大臣から、大気汚染、海洋ごみ、水俣条約・化学物質管理について取り上げ、各分野における環境協力の推進について議論。

日中の自治体間で協力を進める都市間連携協力事業について、中国からの支持・期待が示され、我が国の有する経験や技術を活かして、共同研究の実施など、あらゆる層での協力をより一層を深めていくことで一致。また、陳部長からは、大気汚染に断固として取り組んでいる旨表明があった。



日韓二国間会談

望月環境大臣から、大気汚染、海洋ごみ、気候変動及び水俣条約について取り上げ、各分野における環境協力の推進について議論。

気候変動については、国連気候変動枠組条約（UNFCCC）第21回締約国会議（COP21）での全ての国が参加する公平かつ実効的な枠組みの合意に向け、両国が協力していくことを確認するとともに、約束草案の検討状況や、韓国が開始させた排出権取引制度の状況に関する情報交換を行った。

